

# 先人の熱い思いを受け継いで -わたしたちの学校林-

山形県米沢市立三沢東部小学校

6年 岩本 史希・齋藤 隆治・佐藤 隼人  
安部 里緒菜・鈴木 星那

## 1 はじめに

三沢東部小学校は、山形県南部の米沢市にあります。校名の通り三つの沢と緑豊かな山々に囲まれています。全校児童が47名の小さな学校ですが、学校林の活動はもちろんのこと、田んぼアートやホテルまつり、山野草展など、地域の方々と共に自然を親しむ活動に取り組んでいます。

## 2 学校林の状況

学校林が初めて設置されてから来年でちょうど100年になります。現在、本校には3カ所合わせて3ha程の広さの学校林があります。それぞれ50年から80年ぐらい前に植林された杉林です。将来、学校を新築する必要があるときに活用するよう、先人の方々が植林し、その時々子どもたち・保護者・地域の方々が手をかけながら守ってきたものです。しかし、最近、数年前に少し整備したものの、手をかけていませんでした。そこで、昨年からわたしたちが先人の方々の思いを受け継いで学校林を守る活動を始めました。

## 3 昨年度の活動

### (1) 歩道の整備

地域と森林組合の方々が、見学や体験学習に必要な歩道360mを開設してくださいました。  
わたしたちもチップをしきました。



チップしき

### (2) 森林体験活動

#### ① 学校林見学・森林整備体験学習

11月5日、大杉沢・小杉沢の学校林において、全校生が地域や様々な方々の指導を受けながら、学校林を見学し整備体験を行いました。



間伐材の運び出し



チップ作りと枝打ち



#### ② 看板作成

5・6年生13名で、間伐材を活用して「三沢東部小学校学校林」と平成23年度に完成予定の新体育館の入口に設置する「米沢市立三沢東部小学校体育館」の看板を作成しました。



学校林の看板



体育館の看板

### (3) 森林研修

#### ① 間伐材活用見学と実地研修

1月22日、5・6年生13名で、看板を設置するための三脚のペンキ塗りの体験をしました。次に、間伐材を活用してのベンチ作成の杉皮むきとサンダーがけを体験しました。



看板脚へのペンキ塗り



杉の皮むき



サンダーがけ

#### ② 地球温暖化防止研修会

11月26日、山形県地球温暖化対策室の方々から5・6年生を対象として、地球温暖化防止研修会を開催していただきました。学校林の整備作業で削減できた二酸化炭素の量と山形環境クレジットについて学習を深めることができました。



二酸化炭素の量を大型のボールで体験

#### ③ 学校林研修会

3月5日、3年生から6年生が学校林研修会に参加しました。学校林について詳しい地域の方から、学校林の歴史や木の育ち方等について話をしていただきました。



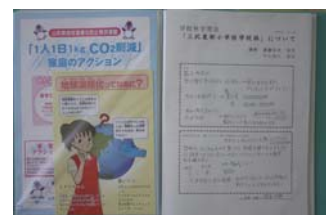
地域の方を講師に迎えて

#### ④ 研修のまとめ

学習したことを掲示板に展示したり、研修資料や写真等を各自ファイルに入れたりして、学習のまとめをしました。



学習の足跡を掲示板に



学習ファイル

## 4 今年度の活動

### (1) やまがた森の感謝祭2010への参加

6月5日、山形県源流の森で開催された「やまがた森の感謝祭」に低学年から7名が参加しました。式典に参加すると共に、杉苗の植樹やペンダントづくり等の体験活動を通して森に親しむことができました。



杉苗の植樹



ペンダントづくり

## (2) ベンチのラッカー塗りと施設等へのベンチ贈呈



ラッカー塗り

6月から7月にかけて、昨年作成したベンチにラッカーを塗りました。そして、7月22日に、市役所や三沢コミセン、小野川温泉組合などの7つの施設・団体に10台のベンチを贈りました。地域の方々に使っていただき、先人の学校林に対する思いを感じていただければいいなと思っています。



地元の保育園にプレゼント



市長さんと一緒

## (3) 学校林見学・森林整備見学・体験活動

三沢東部小学校が所有している3カ所の学校林のうちの1カ所で、縦割り班毎に、下草刈り、コースター作り、自分の木決め、森の遊園地などの活動を行いました。森林に親しみ、森林の望ましい環境について体験を通して学びました。



下草刈り



コースターづくり



ぼくの木

## 5 これからの計画

今年度、次のような活動を計画しています。

- ・「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin東北への参加  
昨年度から今年度1学期までの活動についてまとめたものを発表し、他校との交流を通して今後の活動に生かしていきます。
- ・木を育てる活動  
どんぐりなどの広葉樹を種子から育て、将来、学校林に植える活動を進めます。
- ・間伐材の加工見学・体験活動  
学校林の間伐材を活用し、遊具やフラワーポット等を作成します。
- ・学校林の学習会  
学校林の歴史、森林を守る活動、木の育て方等について学年に応じて学習を深めます。
- ・学習のまとめ作成  
体験したり学習したりしたことを掲示板にまとめて振り返ったり、パネルにして隣の三沢コミュニティセンターにも掲示し、地域の方々にも見ていただいたりしたいと思います。



ターザンロープ

## 6 おわりに

わたしたちの学校には、3カ所もの学校林があります。その学校林は、先人の方々の学校を大切に思う気持ち、わたしたち三沢東部小学校で学ぶ子どもたちを大切に思う気持ちがいっぱいこもっている宝物であると思います。その先人の方々の思いを受け継いで、これからもわたしたちの学校林を守り育てていきたいと思っています。



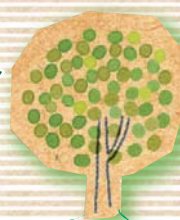


# ぼくたちの学校林活動

～ふるさとに立ち、創り、きたえ、いつくしむ心を育てる～

秋田県北秋田市立合川東小学校

5年 工藤 康大・三浦 李於



## 1 学校紹介

合川東小学校は、秋田県北部の北秋田市にあります。明治8年創立、130年以上の歴史のある学校です。

全校児童は、106名。ぼくたちは、毎日、学校前の道路から校庭を横断するレインボーロードを通過して、学校へ通っています。黄色、水色などに塗られた両側のきれいな石を見ると、今日もがんばろうという気持ちになります。

また、校庭には平成13年にできたメダカ池を再生したレインボー池があります。レインボー池には、メダカ、かえるなどの生き物やスイレンの花、ふんすい、七色の橋などがあり全校児童のいこいの場となっています。



## 2 教育参考林

ぼくたちが学校林と呼んでいる、教育参考林は、昭和60年旧合川町からいただいたもので、学校から約3km離れたところにあり、2.7ヘクタールの広さがあります。

昭和62年には全校親子植樹を行いました。また、この年は助成を受けて「教育参考林の植物調査とその活用」の研究も行われました。平成2年に水道小屋が完成し、この年植林優良校として県に表彰されました。平成8年にブナ・ケヤキを100本植樹しました。（町植樹祭）このころは、学校林でなべっこ遠足をしたり、スキー授業を行ったりしていたそうです。

その後学校林での活動はしばらく行われていませんでしたが、今年度、学校林の整備・活動を始めました。



## 3 今年度の活動

今年度は、森づくり県民提案事業を受けて、教育参考林での活動が始まりました。

- 1・2・3年生 「森を知り森で遊ぼう」
- 4・5・6年生 「森林を調べ森林に学ぼう」



1・2年生…<9月>葉っぱや木の実を使っの工作

3年生…<7月>昆虫調べ

自分で持って来た虫取り網をつかって捕った虫をつかまえては、虫かごに入れ、楽しく活動できました。

4年生…<6月>「自然を体で感じよう」ネイチャーゲーム

【講師】大館少年自然の家 社会教育主事

○目かくしをして歩いて地図に書き込む

○虫眼鏡を持ってじっくりと足元の虫を観察したりする活動

5年生…<6月>枝打ち体験

<7月>樹木の名札付け

【講師】森林環境保全員の方

◇本物の木を切るのは、ほとんどの人が初めてだったので、楽しくてどんどん作業しました。

◇モリアオガエルを見つけたり、大きなミミズを見つけたりもしました。

◇しばらく学校林としての活動を行っていなかったせい、ペットボトルなどのごみもあり、ごみを拾い集める作業も行いました。

6年生…<6月>枝打ち体験

<11月>植樹

全校…9月30日 縦割り班によるなべっこ遠足

ネイチャーゲーム

5・6年生…隣の上小阿仁村にあるこぶスギ見学。



## 4 おわりに

ぼくたちは、学校林での活動を始めたばかりですが、枝打ち作業をして、森に日が差し込んだときはうれしくなりました。森は、そのまま自然なんだと思っていましたが、手入れをしないと荒れてしまうことが初めて分かりました。

また、学校林の生き物を見つけ、生き物にとっての森も大切にしなければならぬと思いました。



# 鷹巣南小学校 ～広げよう緑心をつなぐ緑の活動～

秋田県北秋田市立鷹巣南小学校  
6年 梅原 圭祐・堀部 綾乃・武田 玲菜

## 1 はじめに

鷹巣南小学校は、秋田県北部の北秋田市にあります。昨年度、竜森小学校と統合しました。近くには竜が森山・森吉山などがあり豊かな自然に囲まれた地域です。児童数は、101名で5年生を中心に緑の活動を総合的な学習の時間に行っています。

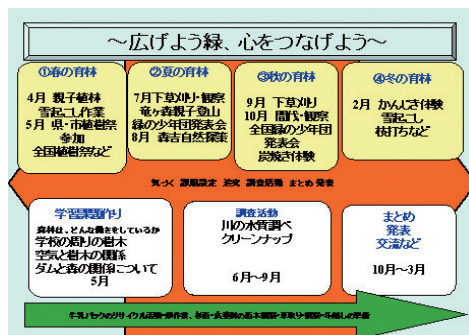
## 2 森林環境学習の取り組み

### (1) 主体的に学ぶ～1年間を通した育林活動（総合的な学習の時間）

元の竜森小学校の近くにある与助岱学習林で私たちは、1年間を通して育林活動を行っています。地域の祖父母や森林官の皆さん等たくさんの方々にお手伝いをしていただきながら、杉の苗木の植樹・下草刈り・枝打ち・雪起こしなどを体験しました。

これらの活動を通して、私たちは木を育てることは、緑を広げおいしい空気や水をつくっていること、さらに私たちの住む地球環境にまでつながっていくことを学習しました。

そして、いろいろな人と関わる中で木を育てる人たちの思いや大変さを知ることができました。昭和30年代から竜森地区で40年以上も続けられてきた学校林の植樹は、統合した昨年から南小に引き継がれ2年目になりました。伝統を伝えること・引き継ぐことの大変さを感じながらの1年間でした。地域の方々の思いを感じながら、育林活動を続けています。



春：親子植樹・枝打ち・雪起こし等  
 夏：下草刈り・自然散策  
 秋：苗木の観察・間伐・枝打ちなど  
 冬：かんじき体験、苗探し、雪起こし  
 など



春：杉の苗木植え



夏・秋：草刈りの作業・観察



冬：かんじき体験・苗さがし

## (2) 自然を守る～環境学習の一環としての取り組み

[各教科や特別活動]

### ①各学年

- ・ 1, 2年生～生活科「アルプス山」探検やひみつきち作り・サクラマスの放流・地域探検
- ・ 3, 4年生～地区探検・自然の生きもの調べ・学校周辺の草花樹木調べなど
- ・ 5, 6年生～米作り・育林活動・砂防教室・EM菌で環境学習・生きもの調査など

### ②全校活動

- ・ 南っ子農園活動・全校クリーンアップ  
→畑から収穫した米, 野菜などを使い, 祖父母や地域の方々と協力し, みそ汁やだまこ鍋, たんぼ作りをし, 収穫を感謝し食べました。地域のクリーンアップもがんばりました。
- ・ 人権花植え活動  
→思いやりの心づくりの一環として実施しました。学校の花壇づくりや公民館・保育園などの公共施設へ花を植えたプランターを贈呈しました。
- ・ エコクラブ活動  
→全校児童が今年度からエコクラブに加入し, 地域の生き物探しやクリーンアップ・エコキャップ集めなど様々な活動を実施しています。

[地域]

### ①地区親子奉仕活動や子ども会活動

- ・ 各地区会館やバス停などの奉仕活動(清掃, 花植え活動)・クリーンアップや地区子供会活動

### ②地域の方々の協力

- ・ 学校支援本部事業での支援(育林活動, 花壇や畑・米作り・学習時の支援など)

[対外的な各行事に参加]

- ①第59回全国植樹祭への参加(福井県)
- ②秋田県水と緑の森林祭へ参加(発表・育樹)
- ③全国緑の少年団交流活動参加(青森県)
- ④県緑の少年団交流会参加など



EM菌でプールをきれいに



お世話になった保育園へ  
人権の花運動



県森林祭で育樹作業



育林の様子を絵に表現

## (3) 豊かな心を育む～表現力へつなげる(人と関わることは心を育む)

- ①育林活動・畑・米作り ～地域の方々祖父母の方々と関わることで感謝の心を育てています。
- ②施設訪問, 養護学校訪問 ～お年寄りや障害を持つ子どもたちとの関わりから思いやりの心を育てています。
- ③体験したことをもとに, 表現力へつなげています。  
→作文や俳句, 短歌, 絵画などに表現。学習発表会での発表などに表現しました。



〔育林活動後の作文より〕

今年は5月に南小として初めてのスギ苗の植樹がありました。たくさん地域の方々が集まってくれました。地域の方が植樹する場所を確保して下さり、急な山の斜面を地ごしらえして下さいました。100本ものスギ苗を植えました。ぼくたちも穴を掘ったり、植樹をしたり汗を流しながら取り組みました。僕たちの苗が大きくなることを想像すると、心がはずんできました。ぼくたちの植えた、100本のスギの苗が、竜森小学校を見下ろしながらすくすく育てほしいなあと思いました。

H21年度 5年梅原 圭祐

ぼくは今日、育林教室で頑張ったことは、杉の苗を植える穴を掘ることと苗木植えです。はじめに穴掘りはとても大変でした。穴の深さを30cmにしようとしたのですが石がいっぱいあったり、斜面が斜めで草で足が滑ったりでなかなか掘れませんでした。杉の苗植えの時は、杉苗の根を四方にいっぱい広げて、植えました。そうすると、根っこが広がって良い木が育つと鷹巣の森林官の方が教えてくれました。次に大変だったのは、足で土を固めることです。きちんと固めないと杉の苗木が抜けてしまうので、きちんと足でトントン踏んで固めました。僕たちが植えた少し上の方に、昨年6年生達が植えた100本の杉苗が1メートル近くになって堂々と立っています。僕の杉もあんな大きくて立派な杉の木になるといいなあと思いました。

H22年度 5年佐藤 聖也

昨年は竜森小学校からの伝統である育林活動を引き継ぐ事の大変さを感じました。今年は昨年の先輩達が植えた苗木がすくすく大きくなっている様子を見て、自分たちも世話をしっかりして頑張るぞと思いました。まさに伝統が1つ1つ積み重なっていく事を僕たちが感じている瞬間です。こうやって歴史はつくられていくんだなあと思いました。



全国植樹祭後の苗木  
大きくなったよ



木登り楽しいね



生活科：桑の実おいしいね

### 3 おわりに

60年後、私たちが植えた広葉樹や針葉樹が大きくなり、豊かな恵みを与えてくれる森になってほしいと思いました。また、私たちが描いた絵のような水がきれいで、生き物が住めるような素敵な夢のある森になってほしいなと思います。それには、竜森小の頃から引き続き来てくださっている魚住さんが話していたことが大切だなと思いました。「木は、おじいさんの足跡で育つ、世話をした分だけ大きくなっていく」という話です。木を育て森を作ることを通して、美しい森作りや環境作りにつとめ、自分たちの身の回りから地球温暖化について、これからも真剣に考えていきたいと思っています。私たちは、美しい森林をもつこの北秋田市を誇りに思います。そして自然から学んだ豊かな心をたくさんの人に伝えていこうと思います。





# ふるさと学習～森林教室の活動～

秋田県藤里町立藤里小学校

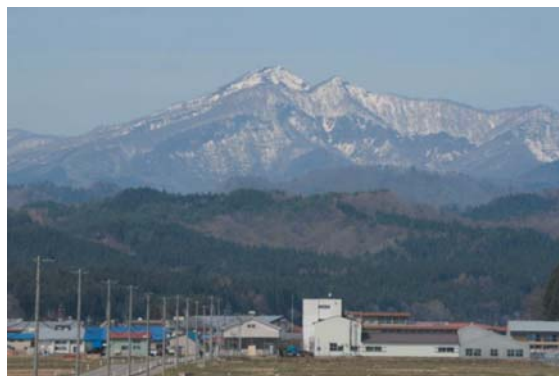
5年 桂田 拳斗・佐々木 瑠夏



## 1 はじめに

藤里小学校は、秋田県の県北地区の中央に位置し、世界遺産に登録されている白神山地の麓にあり、5月には残雪の中に白い馬の形を現した駒ヶ岳を望むことができる自然豊かな校区である。

本校では、総合的な学習の時間の中で「ふるさと学習」ということで、平成5年から藤里町教育委員会の協力により、それぞれの学年に応じた地域学習を展開している。



## 2 ふるさと学習の取り組み

本校の取り組みでは、毎年5年生が白神山地に出向いての「森林教室」と藤里森林センターでの「森林事前学習」、6年生が「小岳登山」や白神遺産センターでの「白神山地学習」、「記念植樹」などを実施している。

### (1) 森林事前学習 5年 6月 藤里森林センター

森林教室の事前学習として5年生は、「藤里森林センター」の佐藤所長さんから森林のはたらきや人工林の育て方、世界遺産の白神山地について講話を受けた。実際にブナの実を食べたり、いろいろな木を触ったりにおいを嗅いだりして、木の違いを実感できた。



### (2) 森林教室 5年 6月 岳岱・田苗代

森林教室は、白神山地を象徴するブナの原生林をはじめ、ふるさとの森に親しんで森のはたらきを知り、その美しさや雄大さを感じるとともに、ふるさとの自然や環境を保護しようとする心情を育てることをねらいに実施している。自然観察指導員の皆さんから、ブナの特徴や高山植物について説明をうけたり、ブナ林に流れている小川で水中生物の採集などを行ったりしている。



四百年のブナで記念写真



○岳岱自然観察教育林でブナ林や水中生物の観察（四百年ブナ， サンショウウオなど）



○田苗代湿原の観察（ニッコウキスゲなどたくさんの高山植物の群落を観察）



### (3) 小岳登山 6年 9月 小岳

藤里町に住む住民の一人として，世界自然遺産に登録されている「白神山地森林生態系保護地域」に一番近い小岳に登り，ブナ林のすばらしさを体験しようと毎年行っている。ブナのトンネルを通して山頂を目指しながら，指導員の方が話されるキノコや熊の足跡，昆虫や植物の話などを子どもたちは，興味深く聞きながら，登山をすることができた。



### (4) ブナの植樹 6年 10月 岳岱

6年の秋には，森林学習のまとめとして，森を守る担い手である自分たちで，岳岱周辺にブナの苗木を植樹している。



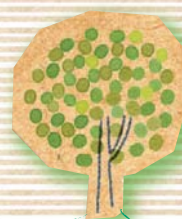
## 3 おわりに

本校は山間部に位置しているが，児童が普段の生活の中で森林について学んだり体験したりすることがほとんどない。これからもいろいろな森林学習を通して，自分の身近にある自然について知り，森林を大切に守っていかうとする気持ちを育てていきたい。また，ふるさとに誇りを持ち，ふるさとの自然を愛する児童の育成に努めていきたい。

# 自然に恵まれた川前小学校

宮城県仙台市立川前小学校

5年 片倉 彩萌・小槌 朝香  
佐々木 那奈子・高橋 りほ



## 1 はじめに

仙台市立川前小学校は仙台市の西部、広瀬川と芋沢川にはさまれたなだらかな段丘上に位置する。広瀬川は、河岸に凝灰岩の切り立った崖をつくり、深く美しい峡谷となっている。河岸段丘は緩やかに傾斜し、雑木林となり、豊かな自然に恵まれた地域である。

市街地まで30分という交通の利便性と自然の多い快適な環境により宅地開発が急速に進み、現在は赤坂ニュータウン、高野原団地から通学する児童が全児童数の90パーセントをしめている。

**【全校児童数484名 19学級】**



## 2 学校林の概要



### 【当初の目的】

学校林活動そもその出発点は当時の社会情勢から戦後の荒廃した森林資源復興と、青少年教育に資するため、国を挙げて学校植林の必要性が大きく取り上げられたことにある。昭和24年に文部、農林両次官の通達で、学校植林計画が示され、その収益については、土地所有者と配分する方針が出された。本校の学校林でも、当時植えられたアカマツが現在伐期を迎えている。

### 【経緯】

- 昭和32年1月17日  
川前小学校の学校林として宮城村長と営林署の契約
- 場所：蒲沢山国有林35林班
- 目的：2：8の分収造林（アカマツ4600本植林）
- 契約期間：昭和32年～平成22年



### 【学校林の現状】

次年度開校60周年を迎えることもあり、これを機に契約を延長し、団地の裏の身近な里山を子供たちの学習の場として整備していくプロジェクトが立ち上がろうとしている。

本校の学校林は、赤坂ニュータウン団地に隣接し、蒲沢山国有林への入り口にある。子供たちは、総合的な学習の時間等で学校林を通して、蒲沢山に入り様々な活動を行っている。

## 3 学校林での活動

### 《地域のサポート》

#### NPO里山ねっと赤坂

学校林での子供たちの活動をサポートしてくださる心強い味方が、地域で活動していらっしゃるNPO里山ねっと赤坂の方々である。里山の案内、情報提供、学校林の下刈りなど、様々な支援をいただいている。



## 《活動例》

### (1) 外部講師の活用



宮城・野生動物保護管理センター フォーエムカンパニーの方を外部講師に迎え、里山に生息している野生動物の存在について説明していただいた。子どもたちは、野生動物が残すフィールドサイン、実際の動物の骨などを目の当たりにして、野生動物のすむ里山の豊かな自然に関心をもつことができた。

### (2) 里山探検



外部講師の講義の後に、里山探検に出発。子どもたちは、春の探検とは違い、野生動物のフィールドサインを探すなど、ひとりひとりが様々な課題をもって調べることができた。外部講師の活用をとおして、自然を観察する新たな視点を学ぶことができ、自然と人との「共生」に気付くことができた。

### (3) 教科とのかかわり



里山での理科の時間は、見る、聞く、触る、嗅ぐ、味わうなど、五感をフル稼働させて、学習する。植物、昆虫に詳しい外部講師が疑問に答えてくれる。



水源涵養保安林に指定されている蒲沢山。学年ごとに様々な環境学習が行われている。



子どもたちの作品。総合的な学習と図工との合科的な指導を通して、作品への愛着、自然への興味を高めることができています。

## 4 おわりに

本校では、「里山ねっと赤坂」の皆様、宮城・野生動物保護管理センターや宮城教育大学教授など、多くの支援体制が充実しており、子どもたちの学びを深めることができています。子どもたちは、学校林を中心とした里山の自然を見て、触れて、感じる活動を通して、豊かな情操を養うことができています。今後は学校林を野外教室として、様々な教科で活用していきたい。



# 「どんぐりころころ」の郷さとで学ぶ松島森林体験学習

宮城県宮城郡松島町立松島第五小学校  
6年 角田 大空・佐々 雄紀

## 1 学校紹介

### (1) 学区の概要

松島第五小学校の学区は、日本三景で知られる宮城県松島の北にあります。干拓地として宮城県内では有名な、品井沼(しないぬま)に隣り合っています。

### (2) 学校の概要

松島第五小学校は、児童数87名です。学校は、「どんぐりころころ」の作者である青木存義先生が生まれた家の跡地にあります。そのようなことから、今も青木先生が作詞された歌を全校で歌っています。



### (3) 森林とのかかわり

本校に学校林はありませんが、森林組合などのご協力で木の製品で囲まれた学校生活を送っています。また、町内の壇山(だんざん)という山や町民の森に出かけて体験学習を行っています。



## 2 5年生での主な活動

5年生では、「総合的な学習の時間」の中で、「松島の森林・林業について調べよう」という学習があります。

### (1) 壇山での森林活動

去年の9月に森林や林業のことで自分が調べたいテーマを決めて、見学や体験を行いました。



壇山の杉林を見学し、林のお世話の必要性などについてのお話をうかがいました。



壇山は100年前には木が1本もなかったそうです。100年前に植えた杉が100年杉として今も大切にされていると聞いて、びっくりしました。また、13種類の木の特徴を分かりやすく説明してもらいました。それぞれにちがう性質があると分かって、勉強になりました。



壇山で説明を聞いたり伐採しているところを見せてもらったりしました。それまでぼくは「自然のままの方が木はよく育つ」と思っていたので、びっくりでした。チェーン・ソーで初めて木を切って、あっという間に木が切れるのでおもしろかったです。



午後は町民の森に移動して、間伐材を利用した表示プレートやストラップを作りました。

## (2) 調べたことの発表会

今年の2月には、自分が決めたテーマに沿って調べたことの発表を行いました。



ぼくは、「人工林と天然林」について調べたことを発表しました。

発表会には、体験学習でお世話になった森林組合や町の研修館の方、木工業者さんたちがお出でになって、ぼくたちの発表を聞いてくださいました。



ぼくは、「木の成長」について調べたことを発表しました。

## (3) 本立て作り

発表会后に、間伐材を利用して本立てを作りました。おいでになった方々に教えていただき、製作しました。



作った本立ては、全クラスと図書室に配り、利用してもらいました。

## 3 今後の課題

5年生での学習は終わりましたが、町内の森林にもっと親しむ活動を行えるといいなと思っています。そこで、「総合」以外で木材に親しみながらできる学習に取り組もうとしています。

### (1) コカリナの合奏(音楽)

間伐材を利用してコカリナという楽器を作る計画があるそうです。楽器を演奏することで松島の木材により一層親しめればいいなあ、と思います。



いろいろな木の種類でできたコカリナ

### (2) 五小学区みどりの少年団(地域)

4～6年生が毎年、JR東北本線品井沼駅前や学校の昇降口前で「緑の羽根」の募金活動を行ったり、みどりの少年団の県大会に参加したりといった活動をしています。

2つの活動以外なかなかできませんが、活動を通して五小学区や松島町の自然環境を守るについて考え、行動する機会となっています。地域の自然のすばらしさを下級生にもしっかり伝えて、活動を引き継いでもらうようにしたいと思います。



品井沼駅前での募金活動



# 学校林に親しみ、森林の役割について学ぼう

岩手県葛巻町立江刈小学校  
6年 下川原 奏太・角地 美桜

## 1 はじめに

江刈小学校は、岩手県の北部、葛巻町にあります。葛巻町は町の86%が森林という緑豊かな町で、「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」として全国的に有名になってきています。また、酪農が盛んで、人口が約8千人に対して、牛の数が約1万1千頭と人口より牛の数が多いところです。

江刈小学校は、町の中央部から南に5kmほどの位置にあります。学校のすぐ裏手を馬淵川が流れ、カモやサギなどの野鳥も見ることができます。

全校児童36名が、みんな仲良く、さまざまな体験活動をおしてたくましく成長しています。



校舎全景



イチョウとモミジ



風車も見えます

## 2 学校林の歴史

### (1) 学校林の始まり

明治38年に、学校基本財産の設置をねらいとして約3haを学校林として設置しました。当時は、個人所有の原野を借用したものでした。その後、また借用や売却を経て、現在の学校林は約7.6haあります。

### (2) 学校林収益金による施設設備等の状況

昭和26年にピアノを購入してから、VTR機器、図書館書棚、体育館備品等を整備してきました。特に、平成5年にはプールハウスを建設し、寒い夏でもプールに入ることができるようになりました。



急斜面を登ります



ネイチャーゲーム



プールハウス

## 3 総合的な学習での取り組み

### (1) 環境問題とエネルギーと私たちの暮らし

私たちの暮らしには石油などを使ったエネルギーが欠かせません。しかし、エネルギーを使うことによって様々な環境問題が起こっていることを知りました。「地球温暖化」もその一つです。

地球温暖化体験ゲームをして、自分たちの暮らしと環境問題がつながっていることを知り、CO<sub>2</sub>削減の必要性を感じました。

## (2) 学校林活動(育樹祭)

木を育てるためには、長い時間がかかります。私たちがしている枝打ち作業が、木を育てるために大切な活動であることを学びました。今年度は、落葉松や栗の木の枝打ちをしました。



## (3) エネルギーと森林の働き

理科の時間には、植物が二酸化炭素を吸収して酸素を出していることを学びました。学校林にもその働きがあり、薪などの森林資源を熱のエネルギーとして利用すれば、二酸化炭素を増やすことなくエネルギーを利用することができるということを学びました。

## (4) 森林と共に暮らす

私たちは、葛巻町にある「森と風のがっこう」へ行ってきました。ここでは、空き缶風呂やコンポストトイレ、バイオガスプラントなど自然に負担をかけない暮らし方を学ぶことができました。また、薪を使ってのピザ作りにも挑戦しました。



## (5) 森林を活かした産業

葛巻町には、森林から切り出された木材を利用した産業があることを聞き、実際に見学して調べてきました。

### ペレット製作

葛巻林業では、ペレットをつくっていました。ペレットとは、間伐材、端材、おがくずなどから作られた燃料のことです。

### 集成材製作

高吟製材所では、木材と木材をつなぎ合わせて、集成材を作っていました。特殊なのりを使うので、丈夫な材木になるそうです。

### ペレットや集成材の活用

森のこだま館という建物は、集成材を使って建てられ、ペレットストーブを冬の暖房に使っていました。

## (6) 秋の学校林遠足

毎年、秋には学校林遠足をしています。全校児童が学校林まで徒歩で移動し、学校林散策や栗拾い、俳句作りなどをします。

## (7) 森林とエネルギーと私たちの未来

最後に、今まで学習してきたことをまとめました。「森林とエネルギー」というテーマで、自分たちが住んでみたい未来の葛巻の暮らしを考えて、グループ毎に絵を描きました。

地球温暖化を防ぐことができる発明や植物、水が無駄にしないプールなどを考えて絵に表しました。



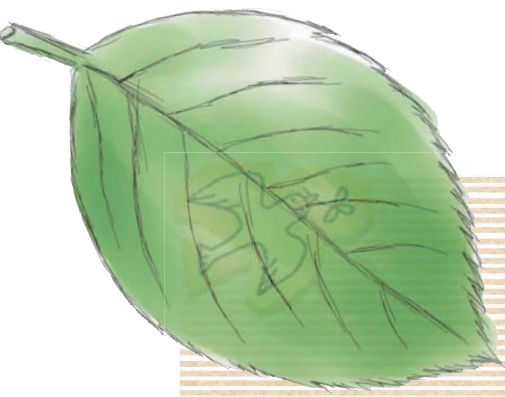
## 4 おわりに

地球という自然環境の中で、私たち人間や動物、植物などが生きていて、そのつながりは密接に関係しています。かきの養殖をしている漁師さんが「森は海の恋人」という運動をしています。豊かな海を作っているのは森林だそうです。

森林に囲まれた葛巻町に暮らし、学校林や森林がどのような役割をもつのかを調べる中で、自分たちの生活と自然環境がつながっていることに気づきました。そして、100年以上の歴史がある学校林をこれからも私たちが守っていかなければならないことや身の回りの環境を大切にしながら暮らしていくことの大切さを改めて感じました。

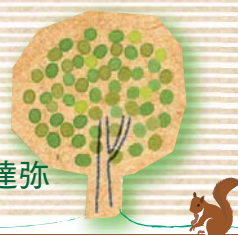






# 私たちの「森林学習」

岩手県八幡平市立安代小学校  
6年 羽沢 望・大森 康太・佐藤 達弥



## 1 はじめに

### 【八幡平市】

岩手県北西部秋田県と接し、八幡平国立公園があります。市内には、安比高原スキー場を始めとする4つのスキー場があり、アルペンスキーだけでなくノルディックスキー(ジャンプ、クロスカントリー)も盛んです。

### 【学校の紹介】

平成15年に旧安代町の5つの小学校が統合し、安代町立安代小学校ができました。その後、平成17年に安代町と西根町、松尾村が合併し、八幡平市になりました。  
現在全校児童136名、学級数7。



## 2 「森林学習」の始まり

○平成16年に岩手北部森林管理署の協力を得て、5年生の総合的な学習の時間の一つとして学習を始める。

## 3 半年間の活動

### (1) 事前学習(5月29日)

近くに森林がたくさんあるとはいっても、林や森の中に入って活動することが少ないので、動植物についての知識がほとんどありません。森林管理署の方の話を聞いて、いろいろな植物の名前や育ち方、実の付け方など実物を見ながら教えていただきました。



### (2) 「ブナの駅」での实地観察(6月3日)

安比高原の奥に位置する「ブナの駅(ブナ二次林)」に入って、实地観察を行いました。事前学習で覚えた植物や昆虫、そのほかにもいろいろな植物など実物を見ながら学習しました。

また、水をためている「緑のダム」や土砂災害を防いでいることなど、山における樹木の大切な役割についても学習しました。



### (3) 宿泊研修 (7月2～3日)

岩手山青少年交流の家に一泊二日でキャンプを行い、「樹木博士」の学習をしました。1日目に森林管理署の方々にいろいろな植物の名前や特徴、何に使われているかなどを学習しました。学習の後には昇段試験があり、皆緊張して臨みました。先生方でさえ1級しかとれないところ、3段に合格した友達もいました。2日目は近くにある鞍掛山で、前日学習した植物などを思い出し、みんなで確かめ合いながら登山しました。



### (4) 「ブナの駅」での下草刈り体験 (8月28日)

元々は牛や馬の放牧地だった安比高原ですが、今では放牧も行われなくなりましたので、春には見通しも良かった高原も、夏の間には下草が子どもの背丈ほど大きくなりました。森林管理署の方々は、毎年何回か下草刈りをするとのことだったので、私たちも体験してみるようになりました。



大きな鎌やノコギリなど、普段使ったことがない道具で初めは戸惑いましたが、やっているうちにコツをつかみ、うまくできるようになりました。とても大変な作業でしたが、ブナ林や高原を守るためには必要な作業だと感じ、がんばりました。



午後は、日本に数カ所しかない二酸化炭素動態観測施設と砂防ダムの建設現場を見学してきました。

### (5) 下草刈りのその後 (10月14日)

下草刈りをしてから一ヶ月半後、また同じ場所に行ってバイオ燃料について学習しました。前回刈った下草を集めて使ってジャガイモ焼きをしました。石油などの化石燃料と違い、二酸化炭素の排出量が少ない(植物が取り入れた二酸化炭素がまた排出されるだけ)バイオ燃料は今見直されていますが、身をもって感じた活動でした。



午後は、落ち葉を使った「落ち葉のステンドグラス」に挑戦しました。皆思い思いの作品を作ることができました。作品は学校に持ち帰って教室前の廊下に展示しました。

### (6) 学習発表会 (10月)

学習発表会では、自分たちがやってきた活動を紹介するとともに、森林の役目や自然の大切さ、管理することの難しさを訴えることができました。また、NHK盛岡放送局での放送体験学習でも、森林学習のことを取り上げて番組を作りました。



## 4 おわりに

山に囲まれた安代ではありますが、進んで森の中に入ることはほとんど無い私たちにとって、この「森林学習」は自然の大切さや管理の難しさを知るとともに、身近な安代の自然に触れることができたとても楽しい活動でした。今まで知らなかった草花や木を知ることによって、自分たちの視野が広くなり、深くなり、そして注意深く変わったような気がします。自分たちが生まれ育ったこの安代をいつまでも大切にしていきたいと思いました。



# 白神自然学校一ツ森校遊々の森発

～語り継ぐべき森との共生の文化を学ぶ～

杉並区立三谷小学校 5年 太田 就

杉並区立永福南小学校 2年 太田 汐音



## 1 学校紹介

白神自然学校一ツ森校は、青森県西津軽郡鰺ヶ沢町の一ツ森地区にあり、近くには白神山地で一番長い川、赤石川が流れ、白神山地の北側の入り口の最後の集落です。

山・川・海の自然循環型の体験活動が出来る地域で、近くには津軽藩発祥の地と言われる国史跡の「種里城跡」があり、城主大浦為信公が住んでいました。津軽藩は日本海運の拠点をつとめ、津軽藩の御用達港として栄えました。また、津軽の米を鰺ヶ沢に集め、北前船で上方へ輸送する体制を作り上げました。また、白神山地には天然記念物の「クマガラ」も棲んでおり、白神山地を狩猟場とする赤石またぎが今でも活躍している自然豊かな地域です。その赤石またぎが授業を実施している学校が白神自然学校一ツ森校です。



一ツ森地区



赤石川



白神自然学校一ツ森校

## 2 白神自然学校遊々の森

白神自然学校遊々の森は2003年10月より、津軽森林管理署と締結式を結びスタートしました。今までも数多くの子供たちが全国から訪れ、この遊々の森で体験学習を通して、森づくりや除間伐作業や枝落とし作業の体験場として作業をしてきました。

## 3 森林体験活動 ～白神自然学校遊々の森にて～



◎白神山地を守る会の人達が講師として森林整備について教えてくれました。



## 4 森林整備から得た間伐材で、マイ箸やコースター作りへ



◎使い捨ての箸をやめ、自分の箸を持ちあるくことは少しでも、木を大切にする心です。

## 5 その他「木を植える」取り組み ～白神山地を守る会～

白神自然学校一ツ森校の前身は、白神山地を守る会です。白神山地を守る会は自然学校の裏の校庭や、近くの田んぼの遊休地にたくさんの広葉樹の苗床を持っています。白神山地のブナの森の復元・再生の為に、植林をおこなっています。秋には種拾いをし、秋には種をまき、翌年には若い苗木ができます。その苗木を3年ぐらい育てた木を植林地と言われる場所に持って行き植えてきます。この種拾いから、苗木を育て、植林した木が250年ぐらい経つと、こういうブナの巨木になりますという説明をすると、子どもたちの環境問題への意識は高まります。平成15年度から始めた白神自然学校一ツ森校の環境教育の取り組みは小さな子ども達の心を打ちます。



## 6 終わりに

今年で7回目となる杉並区教育委員会と連携しておこなってきた「夏休み秘密基地探検ツアー」は、都会の子ども達の本物の自然を知る、最高の機会となっています。特に、本物の「マタギ」が案内する白神山地のマタギ小屋（青沼コース）はマタギの狩猟場を歩く「ドキドキ」「ワクワク」のスリル満点のコースで子どもたちは、自然と共生してきた人間の暮らしを少し学ぶ絶好の機会となっています。

